

本人から見えてる景色が見たいねん

～10年後の彼と地域を見つめた応援～



『男前』

働いて金貯めて、家のテレビ買った。
働くとなええこともある。

地味な毎日に気付くまで

- ・ ナカポツ／ガリガリな制度の中で素敵な勘違いをする。
- ・ 近江商人を育てる／ほんまもんの三方よしを。
- ・ Team困救 TeamNorishiro そして、BASYO
／許してくれる大人たちとの出逢い。



Team 困救

時代の流れと共に

地域の「困りごと」は見えづらく、

そしていつの間にかそれは「諦めごと」になり始めている。

私たち‘働きもん’は、

そんな地域の困りごとを救うチームである。

誰が困っても解決できる地域へ・・・

そんな事を目指す我らは・・・ Team 困救



Team Norishiro

人と人。現場と現場。時間と時間。

隣の誰かを気にできる。

自分のもうちょっとを広げてみる。

隣の誰かとの隙間が重なる。

地域は人と場所と愛と金で埋まるはず。

隣の誰かがその手を握る。

ノビシロよりノリシロが広がる。



B A S Y O

少しの応援が必要なあなたの隣には
必ず一人分の空席がある。

そんな空席に座らせてもらえる時間。

途切れそうな声は隣でなら聞こえる。

働く場所。暮らす場所。

どうしてもええ大事な場所をこしらえる。



地味な現場の本気



旗を振らない軒下産業の意味

暮らしの中にあるモノに触らせてもらう。

特別ではない当たり前前のステージ。

めっちゃシンプルなこと。

地域に生きる人が地域を継続させる。

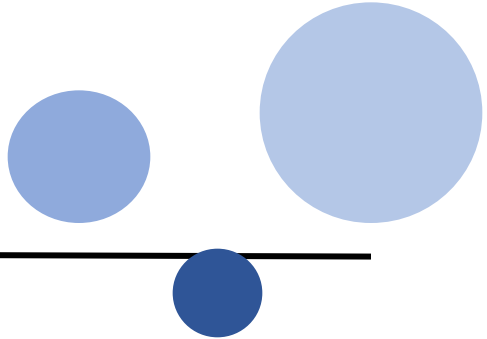
働く事は24hの中にある。



A scenic view of a mountainous landscape. In the foreground, there are terraced fields with some hay bales. A dirt road curves through the fields. In the middle ground, there are several traditional Japanese houses with thatched roofs. A train is visible on a track in the background, surrounded by dense green trees and hills.

山裾から聞こえて来た真実。

“弱さ”という“弱み”



- 生産性、効率を求められる『見える化主義』の日常。
【奥にあるものがたりは評価されない】
- 申請主義の日常。
【手を挙げて弱みを見せないと届かない仕組み】
- 「弱さ」の捉え違い。
【失敗はマイナスであるという小さな枠の思考の傾向】

『職・食・色』

職

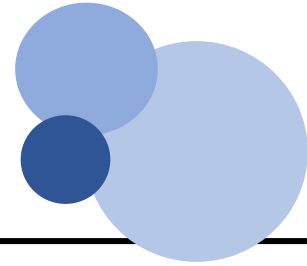
食

色

世間が騒がしい時、変わらない働きがある事の大事を知った。
心配が大きい時、誰かと食べるご飯が気持ちの栄養になる事を知った。
自分の毎日が合っているのか分からなくなった時、教えてくれる人が居る事の大きさを知った。

- 究極のセーフティーネット（目的が無限）
- 日常に取り入れるコトの大事
- 「知り合い」は簡単に出来ない。では出来る様に段取ろう
- 出入り出来る場所の保証（死なない）

“弱さ”という“強み”



- ・多くの「もう大丈夫」の中にある「心配」を出せる環境の構築。
- ・「怖い」は売っていない（非売品）最強
【共通言語と通じる】
- ・自分では及ばない事がある事を知るという強さ
【ツナガリと通じる】

命の中を切り取らない場所

- ・ 生き続ける基本がある場所
- ・ 働くコトは生きる土台の中やと知る場所
- ・ ちびっこを大人たちで囲む場所
- ・ 知っている場所





『オヤジに憧れて』

知らん誰かに直接言われる。

「美味しいわぁ」

週末の夜の出番場所やな。

包丁研ぎ今度持ってくるわ。



『お疲れさん。飯食おう。』

働くコトからつながる時間。

誰かが言う。

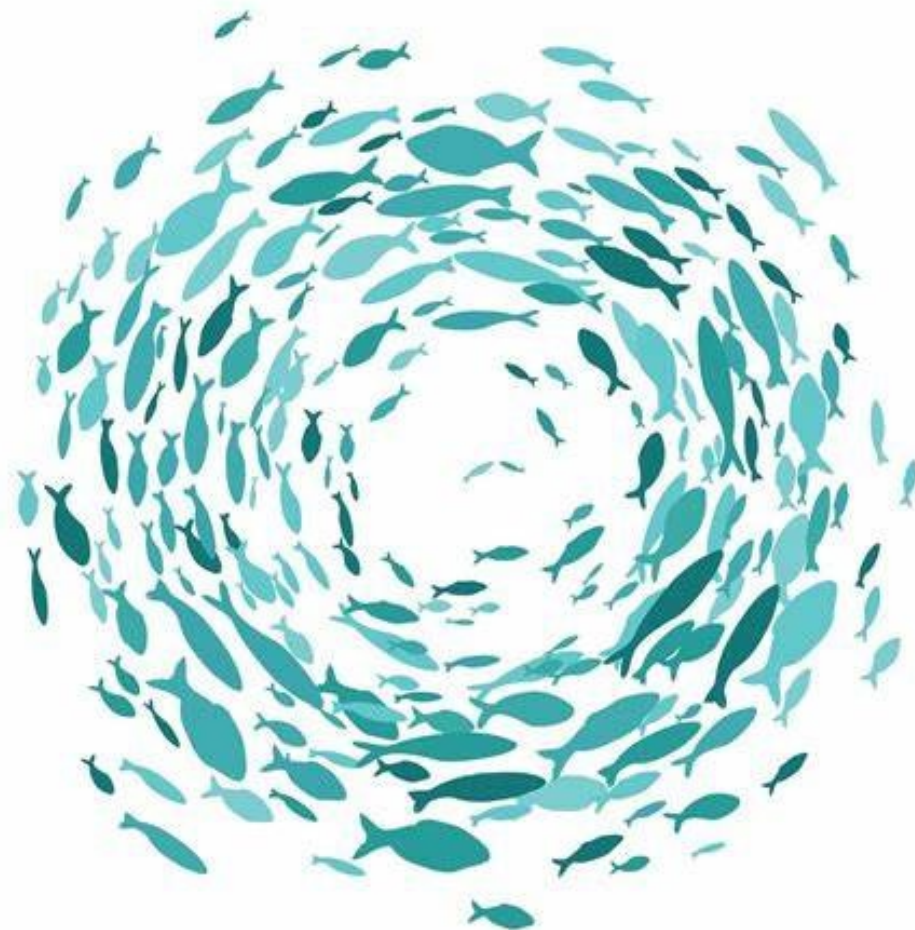
「人が握ったおにぎり食べるのって
遠足以来やわあ〜」

聞いた作り手が台所で泣く。

地味なものがたり。

私の思う 共に…のイミ

- ・ 専門性より関係性
- ・ Firshbowl的応援団構造
- ・ 弱さという非売品の物々交換



彼らからもらったコトバ



みっちゃんは何で理由を聞かへんの？

中学3年生女子

暑い日に外で肉焼いて楽しいのか？

36歳男子

僕と誰かの間に鍋があったら安心やわ。

22歳男子

知ってる？働いたら好きなもん買えるらしいで。

16歳男子



『 気にするが集まる場所 』



共に働くとは
共に気張るコト。

共に生きるとは
共に時間を重ねるコト。

